

デマンドバスは自宅送迎型が当たり前

総務常任委員会が岡山県高梁市の取り組みを視察

2日から3日間、総務常任委員会の一員として研修視察に出てきました。視察地は岡山県高梁市、山口県下関市、福岡県豊前市です。今号と次号でその報告をします。

最初は岡山県高梁（たかはし）市です。ここでは中山間地域における公共交通をどうしたらいいかをたくさん学ぶことができました。

高梁市は9年前に周辺の4町と合併して出来た市。人口は約3万5000人のまちです。面積は547平方キロ、上越市の半分です。高齢化率は36・1%という高さで、旧備中町については50%を超えているとのことでした。



でも、みなさん元気でしたね。この高い高齢化率を逆手にとって高梁市の取組が全国のモデルとなるよう頑張っているのです。定住に力を入れ、子ども医療費は18歳になる直前まで無料、高校生の通学費は2分の1補助、そして地域おこし協力隊は旧4町のうち3町です。すでに隊員を配置し、残りの1町も1名が内定していると言います。

こうしたなかで公共交通はどうなっているか。民間の4条路線バス、市の生活福祉バスが走り、それと「ふれあいタクシー」とか「乗り合いタクシー」と呼ばれている10人乗りのデマンドバスが山間部の5地区で運行されています。デマンドバスを導入は、バスの停留所まで歩いていくことが困難な高齢者などをどうするかが出発点だったそうです。家から出てバス停まで歩くのが大変ですから、買い物をして、その荷物を持ってバス停から家に戻るのも大変です。だから、デマンドバスはドア・ツウ・ド

ア、自宅送迎型の乗り合いタクシーにしたというのです。利用料は場所によって300円から700円かかりますが、これで病院通いも買い物もできると、多くの市民から喜ばれているそうです。

市の担当者の説明を聞いた後の質疑応答は活発でした。私は上越市の山間部でバスの行かない集落を思い浮かべながら、ドア・ツウ・ドアの考え方、旧高梁市内にも広げようとしている「公共交通空白地」対策について訊きました。

高梁市では「デマンドバスII家まで行く」ととらえていて、周辺市町村でもこれが当たり前になっていることがわかりました。デマンドバスは事前予約制が原則ですが、高齢化が進み、電話をかけることを面倒くさがる人も多く、事情を承知している運転手が予約を取っているケースが多いこともわかりました。

同市では、バス停から400メートル以上離れている地域、400メートル以内でも1日に1回しかバスが通らない地域については、「公共交通空白地」として扱います。こうした地域の住民は、路線バスの利用がぐっと減り、「外出難民」になりやすいので、今後、計画的にデマンドバスを入れていきたいという説明に、「これが本当の市民サービスだ」と思いましたね。「補助金を出していながらも、乗車している人がいないことの多いバスを運行するよりも必ず人が乗っているバスを運行する方が住民感情もいい」という言葉もうなずきました。



【トリアシショウマ】ユキノシタ科。漢字で「鳥足升麻」と書きます。緑色の草の中で咲く白い花はとても素敵です。写真は吉川区代石にて撮影したものです。

もう何年も前のことです。早朝に町の中心部を車で走っていると、自宅前にある赤い郵便ポストをタオルか何かで拭いている女性の姿が目に入りました。ゆっくり見ている余裕はありませんでしたが、やさしく拭いている姿が強く印象に残りました。

ポストを拭いている姿を見たのは、その一回だけだったのですが、拭く姿を見た瞬間、「この人は毎日、こうやって奉仕活動をされているのだろうか」と思いました。というのは、訊かなくてもわかるほど、丁寧な拭き方をされていたからです。

その女性は一人暮らしのKさん、私の父と同じ昭和二年生まれだと聞いていますので、現在八五歳か八六歳です。先日、久しぶりにKさんの家を訪問しました。

玄関の戸をあけると、「ちようどいま、お茶を飲むところだがね、上がっていきたくはない。おまんの知っていなる人もいなるし……」と誘っていただきました。車のエンジンを切った後、お邪魔すると、居間には現在は山間部に住んでおられるT子さんもおられました。T子さんはかつてお連れ合いとともにKさんの近くに住んでいたことのある人です。

Kさんは私にお茶を差し出すと、開口一番、「もう五年も経っちゃったわね」と言いました。「五年も経っちゃった」というのは、亡くなったお連れ合いのことです。私がたびたびお会いし、大雨になった時の排水対策などで話をしていたことを思い浮かべてくださったのだと思いますが、そんなふうには話をしてくださることをとてもうれしく思いました。

お茶会では、キュウリの漬物とお菓子が出てきました。一緒にお茶をご馳走になったT子さんとともに、「とりたてのキュウリはガブツとやると、キュウリそのものの香りもして美味い」とか、「ひとロメロンがメロンのなかでも一番うまいのではないか」などといった話をして盛り上がりました。

話を始めて間もなくのこと、居間の障子風の戸にツルらしい影が映りました。お天道さんが明るい光を注いだ時に外にあるものが映ったのです。脇の戸を開けてみると、思っていた通り、そこにはアサガオが何本もあり、ツルが上の方に伸びてもいいようにネットが張られていました。

私はカメラを取り出し、影が映るタイミングを待ちました。写真では左側にアサガオの影、右側には外のアサガオがそのまま入るように、戸を少し開けてみました。自画自賛になりますが、暑い日が続くなかにあつて、涼しそうな感じがよく出た写真となりました。

アサガオはまだ伸び始めたばかりで、花はいくつも咲いていませんでした。アサガオが花や葉っぱとともに窓全体を覆うまでにはまだしばらく時間がかかりそうです。Kさんによると、アサガオとネットは午前の強い陽射しを避けるために近くに住むHさんが仕掛けてくださったとのことでした。ひよつとすると、アサガオはKさんがお店をやっていた頃から近所の人たちなどを招いてお茶会をやってきたことへの感謝の気持ちのあらわれだったのかも知れません。

人間は誰でも人のために役に立ちたいという気持ちを持っていると思います。ただ、それを行動に移すかどうかとなると、躊躇してしまうことが多いのも現実です。だから、Kさんがポストを拭いていた姿やHさんがKさん宅の居間の東側にアサガオを植えたという話には拍手を送りたくくなります。

総務常任委員会が自治基本条例の一部改正提案を確認

市議会総務常任委員会は1日、自治基本条例の見直しについて、再度議論し、出資法人の規定を新たに追加する提案をしていくことを全員一致で確認し、議長に報告することに

しました。この日の議論では、「議会で十分議論した結果が議会からの提案になった。3つの改正点をそのまましゅくしゅくと提案していくのが基本だ。ただ、意見の一致をみるなら柔軟に対応したい」「現時点で不都合や時代にそぐわない点はないと行政側はいうが、そうではない。特に出資法人の追加については譲れない」などの意見が相次ぎ表明されました。私は議会提案全体を議員提案として出すのが基本としつつも、委員会での一致点での行動を重視していきたい、とのべました。

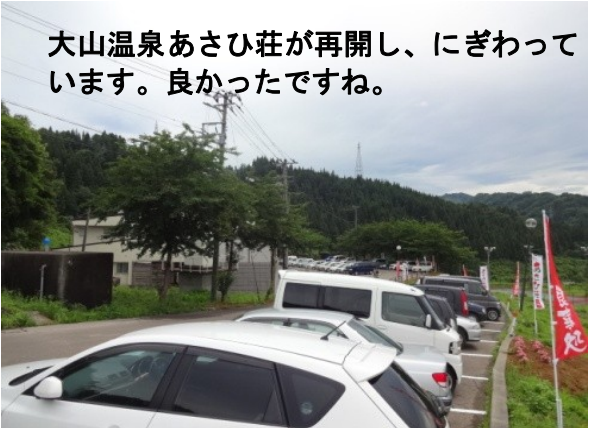
条例の見直しで一致をみた、「出資法人等」に関する規定を第5章（市政運営）に追加する提案、具体的には、「第 条 市長等は、市が4分の1以上出資している法人その他の団体（以下、「出資法人等」という）に対して、適切な情報公開及び個人情報保護が行われるとともに、市の出資した目的が効果的かつ効率的に達成できるよう、必要な指導及び助言を行うことができる。2 市長等は出資法人等の財政状況を市民にわかりやすく公表しなければならない」と考えています。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	7月3日(水)	7月10日(水)
上越南消防署	0.033	0.030
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.047	0.043
頸北消防署	0.053	0.046
頸南消防署	0.043	0.043
東頸消防署	0.047	0.043
高土分遣所	0.047	0.050
名立分遣所	0.050	0.047

議論の結果、最終的には、3つの改正点のうち、出資法人の規定を追加することの1点で改正案を出すことに全員が合意、議長に報告することになりました。

総務常任委員会が自治基本



大山温泉あさひ荘が再開し、にぎわっています。良かったですね。

もう何年も前のことです。早朝に町の中心部を車で走っていると、自宅前にある赤い郵便ポストをタオルか何かで拭いている女性の姿が目に入りました。ゆっくり見ている余裕はありませんでしたが、やさしく拭いている姿が強く印象に残りました。

ポストを拭いている姿を見たのは、その一回だけだったのですが、拭く姿を見た瞬間、「この人は毎日、こうやって奉仕活動をされているのだろうか」と思いました。というのは、訊かなくてもわかるほど、丁寧な拭き方をされていたからです。

その女性は一人暮らしのKさん、私の父と同じ昭和二年生まれだと聞いていますので、現在八五歳か八六歳です。先日、久しぶりにKさんの家を訪問しました。

玄関の戸をあけると、「ちようどいま、お茶を飲むところだがね、上がっていきたくもない。おまんの知っていなる人もいなるし……」と誘っていただきました。車のエンジンを切った後、お邪魔すると、居間には現在は山間部に住んでおられるT子さんもおられました。T子さんはかつてお連れ合いとともにKさんの近くに住んでいたことのある人です。

Kさんは私にお茶を差し出すと、開口一番、「もう五年も経っちゃったわね」と言いました。「五年も経っちゃった」というのは、亡くなったお連れ合いのことです。私がたびたびお会いし、大雨になった時の排水対策などで話をしていたことを思い出さずかべてくださったのだと思いますが、そんなふうには話をしてくださることをとてもうれしく思いました。

お茶会では、キュウリの漬物とお菓子が出てきました。一緒にお茶をご馳走になったT子さんとともに、「とりたてのキュウリはガブツとやると、キュウリそのものの香りもして美味しい」とか、「ひとロメロンがメロンのなかでも一番うまいのではないか」などといった話をして盛り上がりました。

話を始めて間もなくのこと、居間の障子風の戸にツルらしい影が映りました。お天道さんが明るい光を注いだ時に外にあるものが映ったのです。脇の戸を開けてみると、思っていた通り、そこにはアサガオが何本もあり、ツルが上の方に伸びてもいいようにネットが張られていました。

私はカメラを取り出し、影が映るタイミングを待ちました。写真では左側にアサガオの影、右側には外のアサガオがそのまま入るように、戸を少し開けてみました。自画自賛になりますが、暑い日が続くなかにあつて、涼しそうな感じがよく出た写真となりました。

アサガオはまだ伸び始めたばかりで、花はいくつも咲いていませんでした。アサガオが花や葉っぱとともに窓全体を覆うまでにはまだしばらく時間がかかりそうです。Kさんによると、アサガオとネットは午前の強い陽射しを避けるために近くに住むHさんが仕掛けてくださったとのことでした。ひよつとすると、アサガオはKさんがお店をやっていた頃から近所の人たちなどを招いてお茶会をやってきたことへの感謝の気持ちのあらわれだったのかも知れません。

人間は誰でも人のために役に立ちたいという気持ちを持っていると思います。ただ、それを行動に移すかどうかとなると、躊躇してしまうことが多いのも現実です。だから、Kさんがポストを拭いていた姿やHさんがKさん宅の居間の東側にアサガオを植えたという話には拍手を送りたくくなります。

仕事をうまくしたい。はたらきたいです

先日、県立吉川高等特別支援学校の近くに行ったところ、校門のそばに七夕飾りがしてありました。短冊に書かれた文章を一つひとつ声を出して読んでみました。「楽し

い夏休みが過ごせますように」「来年の県の卓球大会で4位以内に入りたいです」「一年生全員が元気に過ごせますように」といった学校関係のことが書かれたものがほとんどでしたが、「就職先が見つかりますように」「仕事をうまくしたい。はたらきたい」と書かれたものが目にとまりました。

【下の写真は、いずれも7日に橋爪が撮影したものです】



障がいを持った人たち、みんなが仕事につけるような政治でないと、いい政治とは言えませんね。

『あねさかぶり』は天正堂にもあります

3月に刊行した私の新随想集、『あなさかぶり』（同時代社、1000円）はおかげさまでたくさんの方から読んでいただいています。

本は原之町の天正堂さんに

も置かせてもらってありますので、ぜひお求めください。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	7月3日(水)	7月10日(水)
上越南消防署	0.033	0.030
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.047	0.043
頸北消防署	0.053	0.046
頸南消防署	0.043	0.043
東頸消防署	0.047	0.043
高土分遣所	0.047	0.050
名立分遣所	0.050	0.047